単元の言語活動３

話し合うと何が起こるか確かめる　――あなたにとって大切なものは何ですか――

活動のねらい

「正解のない時代」といわれている今、お互いの主張や価値観を尊重しながら合意形成をし、納得解を生み出していく話し合いのスキルが求められる。活動を通して、ディベートのような勝ち負けがあるものや、多数決での話し合いではなく、少数派の意見にも耳を傾け、全員が自分の価値観を共有し、尊重しながら話し合いをすることの難しさや大切さを実感してほしい。

タイトル・序文の解説

「青が消える」――　消えてしまったら困るものはなんですか。

「消えてしまったら困るもの」と聞かれると、自分にとって大切なものを頭に浮かべるだろう。そのとき、誰にとって、何にとって、消えてしまったら困るのかは人によって違い、それにより、様々な意見が出ることが予想される。その違いを楽しむと同時に、他者との価値観の違いに触れ、作品への興味を喚起したい。

「離さない」――「離さない」というタイトルから、どのようなストーリーを想像しますか。

「離さない」という言葉から、恋愛の話を想像する生徒もいるだろう。誰が、何を、なぜ「離さない」のか想像することで、人、あるいは人以外が何かに執着するさまをイメージさせたい。そのうえで、作品の中に出てくる「離さない」という言葉の強さや、他の言葉との印象の違いなどについて考えさせたい。

「課題」の解説

課題　自分だけが大切に思っていること、かけがえがないと思っていることを他人と語り合ったとき、どのようなことが起きるだろうか、確かめてみよう。

「青が消える」「離さない」両作品において、主人公が心を奪われ執着しているものは、個人的な価値観によるものである。自分だけが大切に思っていること、かけがえがないと思っていることを語り合うことは、まさに自分の価値観を他者と共有する活動である。なかには、あまり周囲の共感を得られないものをあげる生徒も出てくるかもしれない。その中で、相手に納得してもらえるような理由を述べることや、相手の立場に立って考える姿勢が話し合いに必要な要素となってくる。活動を通じて、他者と価値観を共有することの楽しさと難しさを体験し、お互いを尊重しながら話し合う能力を身につけさせたい。

活動の解説

1　**『青が消える』では「青」、『離さない』では「人魚」のことを、主人公が誰かと語り合ったときの相手のかかわり方はどのようなものであったか、それぞれの作品について考え、比較してみよう。**

「青が消える」では、僕がどんなに一生懸命誰かに語ろうとしても、誰も取り合ってくれなかった。僕の周りは、僕が重要に感じている「青が消えた」ことより、僕にとっては「くだらない」と感じているミレニアムを迎えることに夢中で、青のことには気にしていない様子だった。

「離さない」では、「人魚」がいる、という特殊な状況であるにもかかわらず、同じ経験をしている他者がいることで、お互い状況が理解でき、そのことについて語り合い、共感しあうことができた。

本人にとっては、それに思考や生活を支配されるほど価値がある、重要なものであっても、そのことについて語り合うには同じ経験をしていたり、同じ価値観を持っていたりしないと難しい。

2　**次の項目について、一般的な人間の生活にとって大切だと思う順に、1～10の順位をつけてみよう。jは自分で一つ設定してみよう。**

a　家族　b　友人　c　お金　d　仕事　e　趣味
f　健康　g　教育　h　安全　i　自然　j　（　　）

順位付けをする上で、それぞれ大切に思うものは違うということに気づかせる。jを設定することで、他の人にとっては取るに足らないものでも、自分にとっては大切に思うものがあること、また、その逆があることにも気づかせたい。

3　**グループを作り、グループ内で順位をつけてみよう。jを一つに絞る必要はない。順位を数値化したり、多数決で決めたりするのではなく、話し合いで決めよう。その話し合いの過程で分かったことや気づいたことを発表してみよう。**

価値観というものは、それぞれ個人によって違うものであり、優劣や正誤ではないことに気づかせたい。お互いの考えを尊重しながら、納得解、最適解を考えていく話し合いを経験してほしい。

4　**j（　　）に、「青」「人魚」が入ったとき、話し合いはどうなるだろうか。そこから、文学作品はどのようなことを表現するのが得意か、考えてみよう。**

一般的とはいえない、合意形成が難しそうな事柄でも、小説ならば読者という多数にその価値や重要性を伝えられるし、実体験としては特殊であり、共感を得られないような事柄であっても、文学作品であれば共有することができると考えら

れる。

5　自分だけが、大切に思っていること、かけがえがないと思っていることを一つ挙げてみよう。

自分だけが、という点に重きをおいて考える。「自分だけ」と思っていたら、意外にも多くの共感が得られる場合も、また、その逆もあり得ることは2と同様である。

6　5について、グループで語り合ってみよう。語り合うことで、どのようなことが起きたか、確かめてみよう。

自分が大切に思っていることを考えることは、自分の価値観について考えることである。そしてそれを他者と語り合うためには、しっかりと言語化する必要がある。自分の価値観を言語化し、語り合う経験を通し、自分の価値観に改めて気づくことや、他者の新たな一面を知ることができる。

話し合いの際には、お互いの大切に思っていることについて、優劣、善悪などの判断をせず、共感をもって聴くことを心がけさせたい。

評価規準

(1)言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。〔知・技〕(1)ア

(2)文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。〔知・技〕(1)エ

(3)我が国の言語文化の特質について理解している。〔知・技〕(2)ア

(4)時間の経過や地域の文化的特徴などによる言葉の変化について理解している。〔知・技〕(2)エ

(5)「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。〔思・判・表〕B(1)オ

(6)進んで現代の小説を読み、それぞれの作品に表れているものの見方・感じ方・考え方をつかみ、現代の社会・文化について批評する能力を身につけようとし、今までの学習を生かして、文学作品の表現の特徴について考えようとしている。〔主体的に学習に取り組む態度〕

（中村早知）